

日韓間における大学生の海外観光行動に関する研究

安 哉 宣

広島大学大学院総合科学研究科

A Comparison of Overseas Tourism Behavior between Japanese and Korean University Students

Jaesun AN

Studies of Civilization and Society, Graduate School of Integrated Arts and Sciences

本研究では、日本人大学生と韓国人大学生を対象として、海外観光行動を明らかにすることを試みた。このような問題設定の背景には、国際観光の意義と若年期の観光経験が観光行動の形成に影響を与えていることや観光行動に文化的、社会的要因が影響を与えていることが挙げられる。また、急増するアジア圏の海外旅行の中で、若者の海外旅行の実態把握や同様な文化圏としてみなされるアジア圏における観光行動を明らかにすることが課題となっているからである。

こうした課題に対して本研究では、アジア圏の国際観光において日本と密接な観光交流を行っている韓国をとりあげ、文化的、社会的環境の影響を受けている若者の海外観光行動に着目した。そして、海外観光行動を明らかにするために本研究では、観光目的地のイメージ(外部的要因)、海外旅行動機となるニーズや選好(内部的要因)、現地での観光行動およびその効果(経験的要因)といった3テーマを観光行動の枠組みとして位置づけ、分析を行った。また、若者を総括的にとらえるために個人間の多様な差異や特性に注目し、国籍の違いを把握する上に、性別、地域、学校タイプ、観光経験のような特性による観光行動の差異についても検討を行った。そして、第I章では、まず、国際観光と若者の観光行動との関係を分析

する枠組みを見出すために、観光および観光行動研究をレビューし、既存の分析視角を若者に適用する意義と課題を検討し、本研究の分析枠組を提示した。続いて、急増するアジア国際観光において密接な関係を持っている日本と韓国の観光交流について概観した。

第II章では、訪韓日本人観光者の行動に焦点をあて、観光者の特性や観光形態による移動パターンの差異について検討した。その結果、訪韓日本人観光者の移動パターンは、ソウル中心部に集中していることが明らかになった。そして、観光者の特徴によって、様々な違いがみられた。特に、年齢別に好む観光対象の違いによって、若者観光者と中・高年観光者の移動パターンの差異がみられた。一般観光者と異なる観光行動を行っている若者に注目し、第III章では、日韓大学生の観光行動の分析にあたり、調査の設計と分析方法について概観した。本研究では、アンケート調査とインタビュー調査を実施し、量的分析と質的分析を組み合わせたミックス法を導入した。アンケート調査の有効数は計1,218件であり、インタビュー調査人数は92名である。

第IV章では、第1テーマにあたる観光目的地に対する認知やイメージが観光目的地への訪問とどのような関連性を持っているのかについて注目し

た。アンケート調査を行い日韓大学生が観光目的地である相手国に対して、どのように認知しているのか、どのようなイメージを持っているのかについて検討した。その結果、日本人大学生の場合、韓国の食文化や大衆文化に対する認知度が最も高い一方、知っている韓国の観光地は少なかった。韓国人大学生の場合、日本の食文化や固有文化に対する認知度が最も高く、知っている日本の観光地は日本人大学生に比べて多かった。また、日本人大学生は、韓国訪問に否定的な回答率が高かった学生層において、韓国に対して否定的なイメージを持っていることがわかった。その一方、韓国人大学生の場合、観光目的地に対して否定的なイメージを持っていることが確認できたが、訪問意向にはあまり関係していないというところに日本人大学生との差異がみられた。そして、観光目的地に対する認知度と訪問との関係では、日本人大学生の場合、最も認知されている韓国の文化は訪問目的と密接な関係を持っており、最も認知されている観光地に訪問することが明らかとなった。韓国人大学生の場合、文化に対する認知度は訪問目的にあまり関係していないが、日本人大学生と同様に認知されている観光地への訪問することが明らかとなった。しかし、認知されている観光地の数は日本人大学生に比べて多く、より広い空間で観光行動が行われているといえる。さらに、韓国人大学生は、訪問経験によって観光地に対する認知度やイメージの変化をみせており、訪問経験が訪問先の認知度やイメージと関係していることが確認された。

第V章では、第2テーマにあたる日本人大学生と韓国人大学生の海外旅行に対する意識について検討した。両国の大学生の海外旅行率をみると日本は減少、韓国は増加といった対照的な傾向をみせており、観光行動に影響を与える内部的要因にもこのような違いが存在するのかについて注目した。海外旅行に対するニーズや選好について検討した結果、両国の大学生は共通して自分の視野を広める、美味しい物を食べる、現地の文化に触れることを最も重視しており、旅行先選定においては、食べ物や旅行にかかる費用、風景・景色などを最も重視していった。また、両国の大学生は自

分の生活とは違う、特別な経験、快適で楽な旅行を最も求めており、何も考えずに団体に働くことや、ガイドによる案内など、団体大衆観光は好まない共通点がみられた。その一方、両国間の比較分析により日本人大学生は、買う、見る、食べる観光活動を重視している一方、韓国人大学生はリラックスや日常生活からの逃避、現地での交流、お祭りやイベントなどを重視していることがわかった。そして、旅行先選定において、日本人大学生は機能的属性を重視している一方、韓国人大学生は心理的属性や中間的属性を重視している違いがみられた。好む旅行スタイルでは、日本人大学生の場合、安全志向的である個人大衆観光者の性格が強い一方、韓国人大学生は異質志向的である探索する人の性格が強いことがわかった。また、因子分析により日韓大学生の旅行動機は「新しい経験」、「地域と文化に触れ合う」、「物と評価を得る」、「(リラックス) 家族・友人関係」の4因子からなることが確認できた。しかし、因子を構成している項目やこれらの動機要因と大学生の特性との関係に国籍による差異がみられた。日本人大学生の場合、すべての旅行動機に性別が関係しており、各旅行動機に性別、地域、学校タイプ、観光経験が関係している一方、韓国人大学生の場合、性別と学校タイプのみが旅行動機と関係していることが明らかとなった。

第VI章では、大学生の観光目的地内での行動に注目し、現地調査（インタビュー調査、タイムバジェット）により訪韓日本人大学生と訪日韓国人大学生の訪問地での活動や経験の内容、観光体験による効果について分析を行った。その結果、訪韓日本人大学生の一般的特徴では、旅行手配は旅行業者を利用することが多く、友達や家族との同伴観光、韓国の食文化体験やショッピング中心の観光活動が行われている。そして、

訪問地域によって滞在期間と旅行経費の差異がみられた。空間的特徴では、近接地域への移動はみられず、訪問地域内だけで行動が行われている。訪日韓国人大学生の一般的特徴では、旅行手配はインターネットを利用して個人で行うことが多く、韓国経営の宿泊施設の利用、現地での韓国人との交流や観光情報を収集していることが明

らかとなった。空間的特徴では、訪問地域内だけではなく、近接地域へ移動が行われている。そして、観光者の志向や好みによって移動パターンや訪問先の多様化がみられた。

従来の異文化体験に関する研究において、訪問経験が訪問国やその国の人々に対するイメージに肯定的な影響を与えることや、異文化理解の機会を提供する意味で国際観光の重要性が認識されてきた。日韓大学生の観光体験に対する認識について両国大学生の間でも、訪問経験によって相手国を理解したり、現地の人々と接することで良い印象を受けたり、否定的なイメージが肯定的なイメージと変化するなど、訪問経験が相手国との関係に肯定的な影響を与えていることが確認できた。また、日本人大学生の場合、韓国で受けた良い印象が再訪問のきっかけになることや訪問経験によって相手国に対する親密感が高まることがわかった。韓国人大学生の間では、歴史的な問題を伴う日韓関係に関して心理的な距離感を抱いているが、相手国を旅行することや良いところを見習い、受け入れたいという認識から、心理的距離感とは訪問や個人の観光活動に否定的な影響を与えていないことが明らかになった。

最後に第七章においては、本研究の成果を要約するとともに、日本人大学生と韓国人大学生の観光行動の特徴について考察を加えた。

従来の若者の観光行動研究では、若者が置か

れている社会的、環境的状况を考慮せず、若者を年齢だけに区分し、属性による差異を中心とした考察に限られることが多かった。しかし、本研究では、従来、明らかにされなかった大学生の個人観光というセグメントの観光行動の分析と観光行動に現れた国籍による違いをアジア圏における隣接国間の観光交流に踏み込んだ分析が可能となった。また、既存研究では、観光者行動は人口統計的分類、モチベーション、ライフスタイルにより同じ観光行動を行うことから、国籍は類似観光行動を予測する変数であり、単独説明変数ではないことが提起されている。しかし、文化的・社会的な要因に注目した研究は蓄積されており、本研究でも、文化的・社会的要因により観光活動の好みや観光形態が異なることが確認された。日韓大学生が海外旅行において最も重視していることは同様なところが多く、観光動機要因も4因子構造であるなど両国大学生は類似であることが確認されたが、実際の訪問先では異なる観光行動を取っている場合が多く、観光行動に文化的、社会的環境は大きな影響を与えているといえる。それをさらに詳しく実証するために、今後の課題として異なる国籍の観光者を対象とした人口統計的分類の同集団やモチベーション別による同集団、ライフスタイル別による同集団間の観光行動の分析を試みることが求められよう。